

そんなこんなで、サンデーレース大好きなOP T2だから、ただの取材ではおもしろくないでしょ！という大義名分の下、強引に出場してしまったOP T2ポロハチロク&サイトーなのだ、この時点ではまだ、どーいうリザルトになるかなどはまったく考えていなかった……。

### 無謀な挑戦を ひたすら後悔……

北は福井、南は福岡まで、西日本一を決定するバトルには46台がエントリーしてきた。この中の上位10台が昨年の走り屋チューナー日本一決定戦の上位4名と真の日本一の座を賭けて高速バトルを展開する。ポロハチ!? もちらろんこの日本一バトルに強引に出場したのだ、身のほども知らずに。さて、並いる競合ショップのマシンは、というところ。

レギュレーションは、触媒の装着とセミレーシングタイヤ禁止の2点。それ以外はなんでもアリ状態だ。

ポロハチロクも何でもアリでチューニングされているんだけど、ベースはあくまでもAE86。まわりから見ればたかが1600ccのおモチャだ。なんたつて他のほとんどがオーバードのモンスターなんだから。唯一、愛知のピットインパルがAE92を持ち込んでいるけど、これにしてもスーチャーのGTZをチューニングしたマシン。

走り屋チューナー日本一決定戦。昨年の覇者ドクター山沢は、早々にエンジントラブルでリタイアしてしまった。最初はFD3Sで出走する予定だったけど諸々の事情でEP82に変更しなければならなかった……運が悪かった山沢さんだった。



レースの合間に東西の著名なチューナーがテーブル（じゃなかった、ゴミカゴ）を囲んで話が盛り上がる。「最新のチューニング情報でも交換しているのかな?」なんて思ったキミはまだまだ青いな。チューナーのみなさんはそんな話めったにしません。大抵は女が食べ物の話だ。



決勝レースを制したのはガレージ伊藤GT-R。走り屋チューナー日本一の栄冠に輝く!



表彰台右から2位の新倉さん（マイナス 神奈川）、増本さん（ガレージ伊藤 大阪）、香白さん（カッパツ 福岡）。



音岐は持っているA2000をレギュレーションに合わせてグローバ（065/60-14）に交換して予選アタックに臨んだポロハチロクのタイムは、2分4秒231。トップからなんと15秒近く遅れている……。



「あー……来たよ良かった。まさ、サイトー、久しぶりの究極のどん底落ち込み体験。」



「1600だもん、ポロだもん……しょうがないよ。相手はGT-RとかFDなんだもん。頑張ってね」アベックス名古屋(宮)の山田さんだけが応援してくれたのであった。



レースの名義にはアイメックが持ってきたグループAスーパーラジのデモ走行があったりして楽しかったです。(ドライバーはターザン山田選手)

多めに見積もっても1400psのポロハチとは較べる術もない。フリー走行、予選アタックとスケジューリングは進行していき、予選タイムが公表された。

ベストタイムは、セレクトAS・G T-Rの澤さんがマークした1分50秒483。ポロハチは約14秒遅れて41番手の2分4秒231だ。



こんな新手法MR2も参加したのだ。MZY With R-Bit MP2っていうんだけど、選んできたのはなんとTOMSのトランスポーターなのだ。トムスもついにストリートチューナーに参入か? なんて感じてウチワで盛り上がってました。なんでも、来年のニューツーリングカーレースに使われるエンジンが載っているってウワサだったけど、どうなんだろう?

### 激しいバトルにチューナーの意地を見た!

しかし、参加しているみなさんの気合の入れようたるや凄まじいものがある。西日本勢は何が何でも日本一決定戦に出場したいし、東日本軍団も、プライドに賭けて負けるわけにはいかない。気持ちはわかるんだけど。

ここで関東からの招待選手を紹介しておこう。JAM・ドクター山沢、マインズ・ニヤ蔵クラゾー、トラス・スリラー平田、RE雨宮・雨宮さん、以上4名、あいんどオマケのOP T2ポロハチ・サイトーだ。

ニヤ蔵クラゾーだけは、前回のGT-Rをモディファイして持ち込んだが他はT1に合わせたスペシャルマシン

をもち込んでいる。スリラー平田は6速ミッションを積んだツインチャージャーのGT-Rを、雨宮さんはスーパーG7だ。ドクター山沢は、昨年のパルサーGTI-RからFDにチェンジして参加する予定だったけどセッティングが間に合わず、ナ・ナントEP82ソレイユで出走。

西日本一決勝戦が終わって、日本一決定戦に駒を進めた10名は、フィニッシュ順にオートセレクト・澤さん、ガレージ伊藤・増本さん、オーテック塚田・塚田さん、カッパツ・香月さん、テストラン・井上さん、ウイズレーシングカーズ・瀧本さん、藤村オート・藤村さん、アルミック・鈴木さん、レイズ・斯波さん、HKS関西・向井さん。これに関東勢4名とサイトーを加えて計15台で日本一の座を争う。

さあ、いよいよスタートの時間だ。グリーンフラッグが振り下ろされる。真っ先に1コーナーへ飛び込んだのはオートセレクト・澤さんだ。9番手からのスタートとなったスリラー平田も強烈なロケットスタートを決めた。前にいたテストラン・井上さんの右からピットウォールにボディをこすりつけながらかわしていく。しかし、これが原因で左リヤホイールのリムが曲がってしまった。止むなくピットインしてタイヤ交換。12周のスプリントでピットインは致命的だ。再度コースインしたもののすてにトップに2周以上の遅れ

をとっている。ずいぶんいろいろなサンデーレースに出場したけど、ここまで激しいスタートは初めて見た。ホント、あの中に入ってなくて良かった……。

序盤から接触やコースアウトで続々と強豪が姿を消していく。トップはセレクトAS・GT-R。テールノーズでガレージ伊藤GT-Rが続く。と、いつともオレは実際には見えない。なにせ4周目あたりからはどこを走っているときでも、前にも後ろにも、見渡すかぎり1台もクルマがないという、かなり情けない独走状態だったんだから。

ギャラリーの視線が「マイペースで走ってるなあ」「どーして決勝戦にこんな遅いのが走ってるの?」といっているのがハッキリわかる。つまり、それほど遅いってことなんだけど。「遅くて悪かったね! これでも一生懸命走ってるんだい!!」

「アッ、Rが2台でクラッシュしてるぞ。誰だ? 瀧本さんと藤村さんだ! 大丈夫かなあ……」

レースは8周目で赤旗中断。7周目のコントロールライン通過順でレース成立ということになった。

トップでコントロールラインを通過したのは、セレクトAS・GT-Rだったけど、ペナルティがあつて失格。2番目に通過したガレージ伊藤GT-Rが繰り上げの優勝。ドライブしていた増本さんと伊藤社長が走り屋チューナー日本一の座に輝いたのだった。

いや、激しいレースだったなあ。